

特定非営利活動法人 ふうどばんく東北 AGAIN

平成 29 年度 上期 事業報告書

第 9 期

平成 29 年 4 月 1 日 ~ 平成 29 年 9 月 31 日

目次

1	平成 29 年度 上期 事業総括	1
2	フードバンク事業報告	2
2.1	支援方法	2
2.2	支援実績	3
2.2.1	支援人数	3
2.2.2	支援件数	3
2.2.3	支援方法別(人数)	4
2.2.4	支援総重量	4
2.2.5	支援方法別(重量)	5
2.2.6	困窮種別(件数)	5
2.2.7	困窮種別(人数)	6
2.2.8	支援件数割合(個人・団体)	6
2.2.9	年齢別(人数)	7
2.2.10	地域別(支援件数)	7
2.2.11	地域別(支援人数)	8
2.2.12	利用回数別	8
2.2.13	困難事由別	9
2.2.14	支援要請男女比	9
2.2.15	世帯人数割合	10
2.2.16	世帯構成比	10
2.2.17	ライフラインの状況	11
2.2.18	食糧寄贈(品目別)	12
2.2.19	食糧寄贈(地域別・個人)	13
2.3	連携団体・団体支援先 一覧(計 81 団体)	13
2.4	企画イベント等実績	15
2.4.1	フードドライブ	15
2.4.2	生活困窮者への食事提供「AGAIN 食堂」	15
2.4.3	講演活動	15
2.4.4	参加研修	16
2.5	広報・メディア対応	16
2.5.1	マスコミ掲載	16
2.5.2	政策提言	16
2.5.3	行政との意見交換会	17
3	就労移行支援事業 就労サポートセンターあがいん	17

3.1	就労移行支援事業 総括	17
3.2	利用登録者・見学者 推移	18
3.3	就労サポートセンターあがいの様子	19
3.4	参加研修	20
3.5	マスコミ掲載	21
4	組織体制等	21
4.1	会員・ボランティア	21
4.1.1	会員数	21
4.1.2	ボランティア数	21
4.1.3	情報発信	21
4.2	役員	22
4.3	事務局	22
5	実施した会議等	22
5.1	臨時総会	22
5.2	理事会	22
6	助成金・寄付金	23
6.1	助成金	23
6.2	寄付金	23

1 平成 29 年度 上期 事業総括

平成 29 年度 上期（4 月～9 月）に食糧支援した延べ人数は、7,412 名にのびりました。この数は、昨年度の下期（9 月～3 月）の 7 ヶ月間に支援した 5,593 名より、約 2,000 名を上回る、はるかに多い人数となりました。近年、ますます生活困窮者への食糧支援のニーズが高まっていることが分かります。また、上期に支援した食量は 5 トンを越え、生活困窮者への支援と食品ロスの両面から、非常に意義のある大きな役割を担うことができました。

上期の被災困窮者への食糧支援は述べ 1,783 名で、その数は全体の 24.1%にのびりました。この数字をみても、東日本大震災から 6 年が経過する今も被災者の生活は厳しい状況にあるのが見て取れます。一方で、被災していない生活困窮者への支援数は延べ 2,475 名で、被災困窮者を上回る全体の 33.4%にのびりました。生活困窮は、いまや社会全体の課題と言える状況です。もう一つ特徴として、子どもの貧困があります。当団体が支援した 20 歳未満の貧困者の割合は全体の 20.1%にのびりました。この数は、日本全体の子どもの貧困率 13.6%をはるかに上回っております。また、当団体が直接に食糧支援したケースのデータからみると、生活困難事由別で最も多いのが「就職難」(18.1%)と「病気で働くことが困難」(18.1)で、次に多いのが「精神障がいがあり働くことが困難」(15.3%)、その後「シングルマザー」「病後」「知的障がいがある」などと続きます。年齢別で見ると、0 歳～20 歳が 20.1%、21 歳～64 歳の最も働き盛りと言われる年齢層が 53%を占め、65 歳以上が 26.1%にのびります。世帯構成別で最も多いのが「独居」(80.2%)、次に「親子の 2 人世帯」(9%)、「夫婦 2 人世帯」(3%)となりました。このデータからも、高齢、障がい、独居、病気などの背景を抱える方々が、最も多く生活困窮に陥っていることが分かりました。

現在、生活困窮により、多く子どもたちの未来への“可能性”という芽が摘まれようとしています。こういった状況を見ても、当フードバンクの活動の意味は非常に大きいものと改めて実感しているのと同時に、食糧支援という活動を通して、これからも困っている方々の一助となれるような活動をしていきたいと強く感じております。

一方、当団体に寄せられた個人からの食糧寄贈の数は、昨年度の下期よりもはるかに上回り、155 名の方から寄贈いただきました。6 ヶ月間だけで、企業と個人を合わせると 16 トンもの食糧を寄贈いただけたことは、当団体の活動の認知度が更に広がっていることと、市民の多くの方々が、生活困窮という社会課題への関心の高さや“困っている方の力になりたい”という気持ちの表れであると感じており、大変嬉しく思っております。

私たちは、多くの方に当団体の活動を知っていただくことで、その方の身近に困っている方がいた際に、必要な支援や相談機関により繋がりがやすくなると考えており、助け合う社会を目指しています。その為、支援を必要としている方にいかに情報を届け、食料支援はさることながら、その方が必要としている支援に繋ぐことを目的としている当団体としては、多くの皆様が私たちの活動を知り共感して下さる方が増えていくことは非常に嬉しいことです。

より多くの皆さんに当団体の活動を知っていただき、支援を必要としている方に支援が届くように、私たちは広報活動を積極的におこなってきました。上期では、フードライブの開催は計 4 回、マスコミ(新聞、テレビ、ラジオ、雑誌)掲載は計 16 回、講演会は計 4 回にのび、多くの方に広報と呼びかけをおこなってきました。どれも反響がよく、市民の関心の高まりを感じるだけでなく、宮城県も平成 29 年度から「フードバンク活動支援事業補助金」を開始するなど、社会全体の関心の高さが伺えます。

その他、7 月におこなわれた仙台市長選挙立候補者に対して、「生活困窮者支援にかんする 公開質問状」

を提出し施策をお聞きしたり、仙台市と定期的に意見交換会を実施するなど、今後の行政との連携、協力のあり方についても協議を進めているところです。

また、連携被災者支援や生活困窮者支援、子ども食堂、子どもの学習支援、シェルター、炊き出しをおこなっている団体などとの連携団体数は、81 団体にのぼり、今後も各団体と連携して困っている方々へ食糧提供や支援ができるネットワークを築いていきたいと考えています。

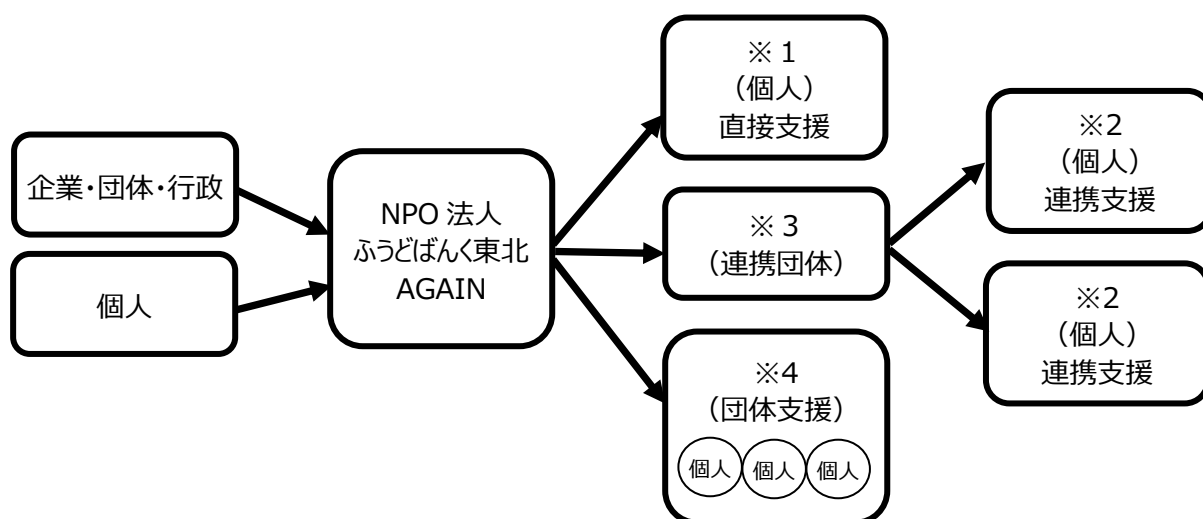
事務局体制としては、これまで支援ケース記録を詳細に取れていませんでしたが、上期からは障がいの有無、病気の有無、生活保護受給の有無、家族構成などのデータや、寄贈いただいた重量や、支援した重量などのデータも取りはじめ、より正確なデータを取ることで、説得力のある現実の数として、現状を広く伝えていく材料として活用していくと共に、このフードバンク活動の必要性や意義、そして困っている方々への支援・施策のあり方をさらに社会に伝えていきたいと考えています。

2 フードバンク事業報告

2.1 支援方法

個人、および企業・行政などの団体から当団体が食品の提供を受けます。

当団体からの支援は、個人支援と団体支援の 2 種類があります。個人支援は当団体が直接配達等させていただく「直接支援」と、連携団体経由で支援させていただく「連携支援」とに分けられます。団体支援の場合も団体を通じて最終的には個人の方に支援が行われます。



※ 1. 直接支援 = 当団体が直接に食糧支援をおこなった個人支援ケース

※ 2. 連携支援 = 連携団体から食糧支援をおこなった個人支援ケース

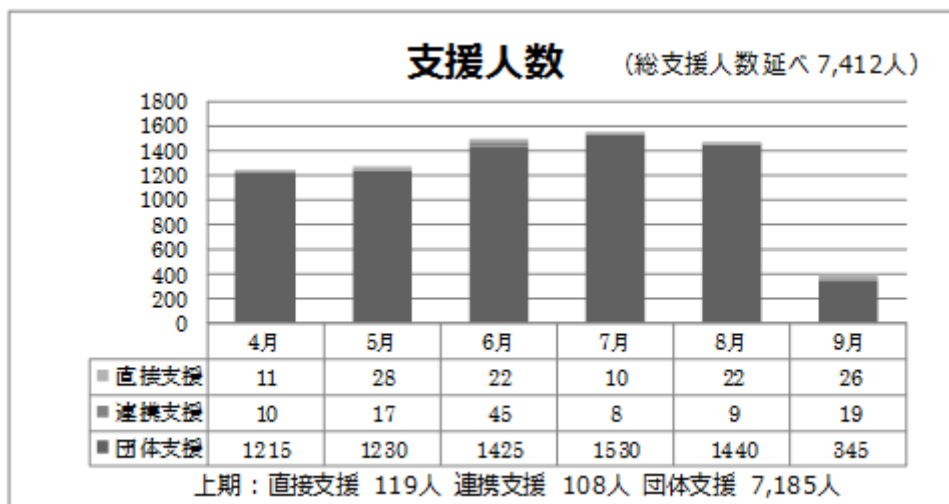
※ 3. 連携団体 = 当団体と連携団体にある団体

※ 4. 団体支援 = 当団体が食糧支援している団体

2.2 支援実績

2.2.1 支援人数

平成 29 年度の上期に、当団体が食糧の支援人数は述べ 7,412 名にのぼりました。昨年度下期の、5,593 名より、約 2,000 名を上回る、はるかに多い人数となりました。近年、ますます生活困窮者への食糧支援のニーズが高まっていることが分かります。

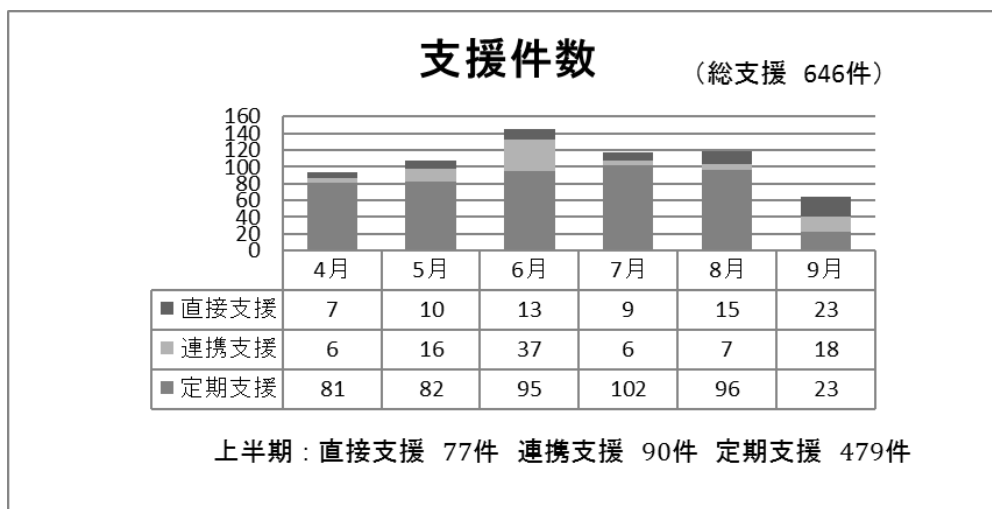


※ 上記の図「2.1 支援方法」の、※ 1、※ 2、※ 4 の合計人数で計算

※ 団体支援は、1 件あたり 15 人で計算

2.2.2 支援件数

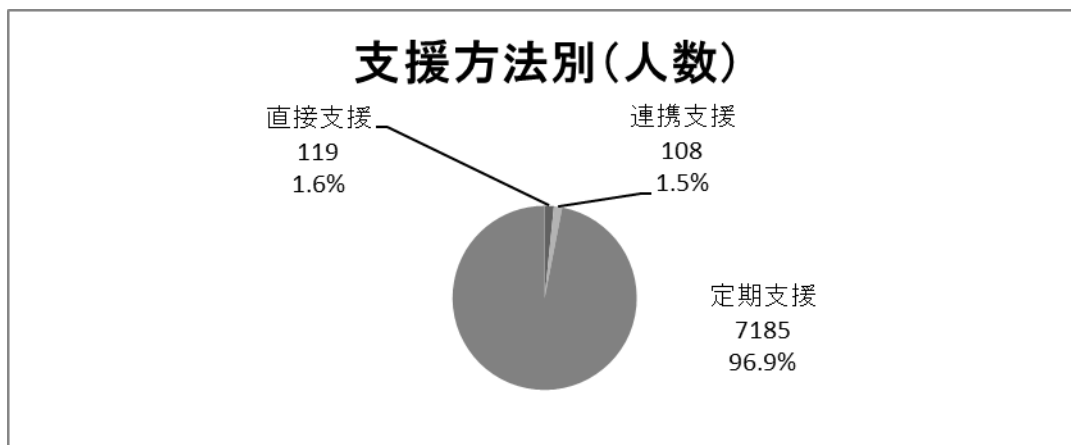
平成 29 年度の上期に、当団体が食糧の支援件数は述べ 646 名にのぼりました。この数は、昨年度下期の 609 件より多くなりました。特に連携団体を通じての支援件数が増えたことから、各支援機関とうまく連携がすすんでいることがわかりました。



※ 上記の図「2.1 支援方法」の、※ 1、※ 2、※ 4 の合計人数で計算

2.2.3 支援方法別（人数）

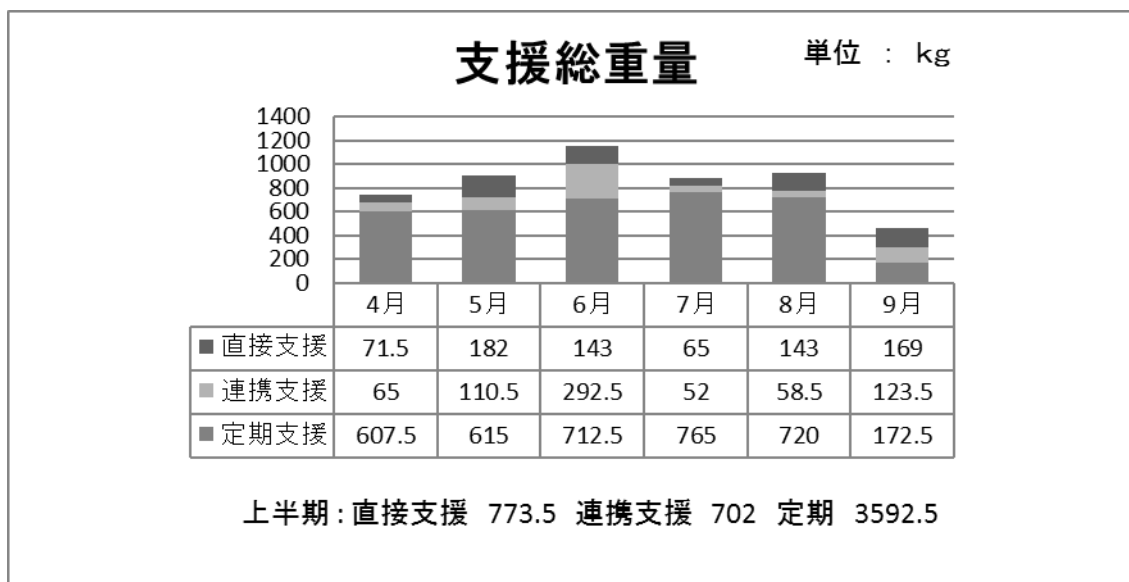
圧倒的に「団体支援」内の個人に対しての食糧支援人数が多いことが分かりました。また、直接支援の人数は、昨年度下期 127 人とほぼ同じ 119 人となり、連携団体を通しての支援人数は、昨年度下期 26 件の約 4 倍に増加しました。



※ 上記の図「2.1 支援方法」の、※ 1、※ 2、※ 4 の合計人数で計算

2.2.4 支援総重量

平成 29 年上期で、当団体が提供した食糧品は述べ 7,412 名の食事につながり、その総重量は 5t 68kg にのびりました。



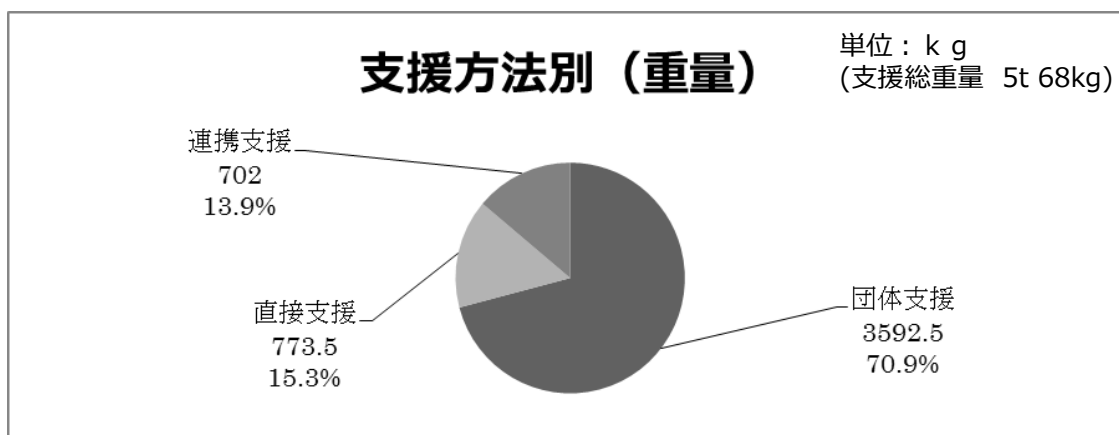
※ 上記の図「2.1 支援方法」の、※ 1、※ 2、※ 4 の合計人数で計算

※ 直接支援と連携支援の個人支援の重量計算は、1 人分を 4 日間食べることのできる食量(1 回 : 1 人分 6.5Kg)と人数で計算

※ 団体支援(団体支援)の重量計算は、1 人の 1 回の食事量(1 食 : 1 人分 500g)と支援人数で計算

2.2.5 支援方法別（重量）

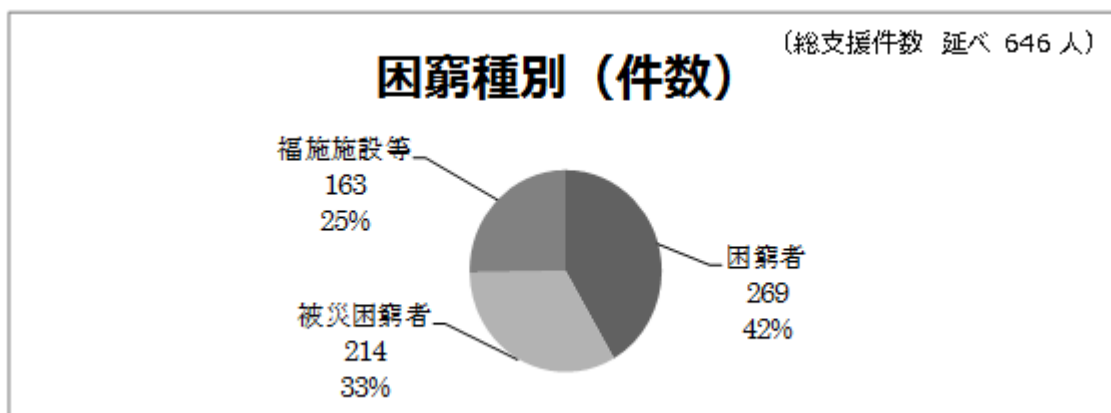
支援した食糧の総重量 5t 68kg の内、「支援方法別」の人数は、直接支援が 119 名で全体の 1.6%、連携支援が、108 名で 1.5%、団体支援が 7,185 名で 96.9%でしたが、「支援方法別」の重量では、直接支援が 15.3%、連携支援が 13.9%、団体支援は 70.9%となり、直接または連携団体を通しての個人への食糧支援がしめる重量の割合が多いことが分かりました。



- ※ 上記の図「2.1 支援方法」の、※ 1、※ 2、※ 4の合計人数で計算
- ※ 直接支援と連携支援の個人支援の重量計算は、1 人分を 4 日間食べることのできる食量(1 回：1 人分 6.5Kg)と人数で計算
- ※ 団体支援(団体支援)の重量計算は、1 人の 1 回の食事量(1 食：1 人分 500g)と支援人数で計算

2.2.6 困窮種別（件数）

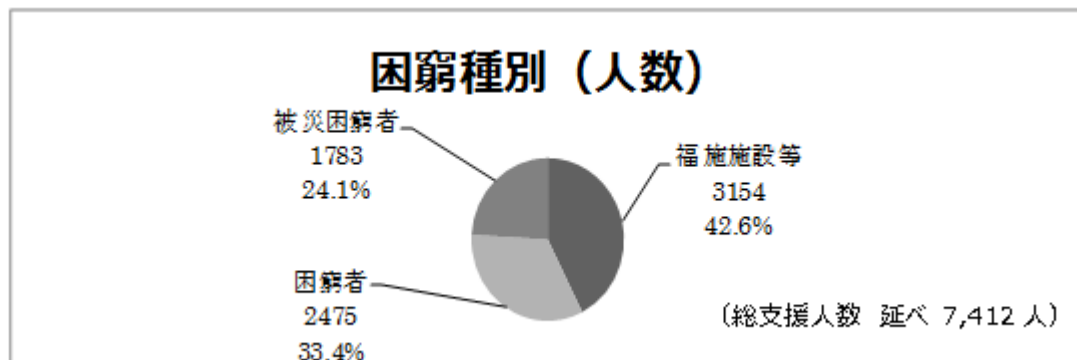
被災困窮者への食糧支援件数は 33%にのびりました。一方、被災はしていないが生活困窮している方への食糧支援件数は 42%にのびりました。このことから、生活の困窮は被災地・非被災地にかかわらず全地域で陥っていることが分かりました。



- ※ 上記の図「2.1 支援方法」の、※ 1、※ 2、※ 3、※ 4への支援件数で計算（例：3 人家族でも 1 件で計算）

2.2.7 困窮種別（人数）

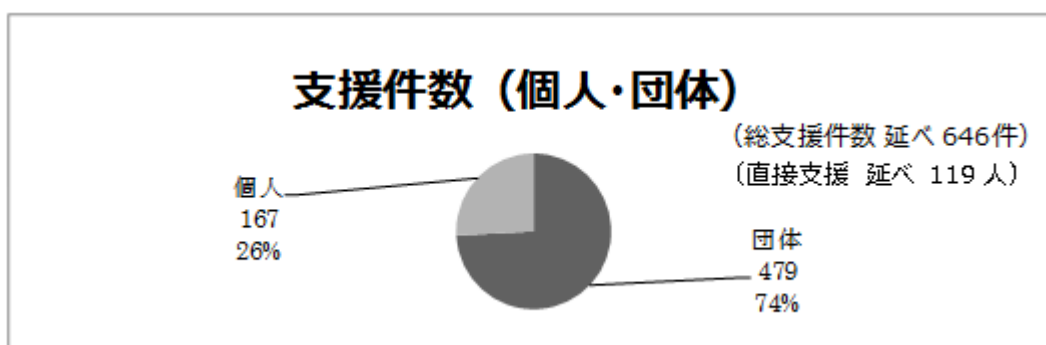
支援人数で見ると被災困窮者(24.1%)と困窮者(33.4%)を合わせると、全体の 57.5%(4,258 人)にのぼりました。



※ 上記の図「2.1 支援方法」の、※ 1、※ 2、※ 4 の合計人数で計算

2.2.8 支援件数割合（個人・団体）

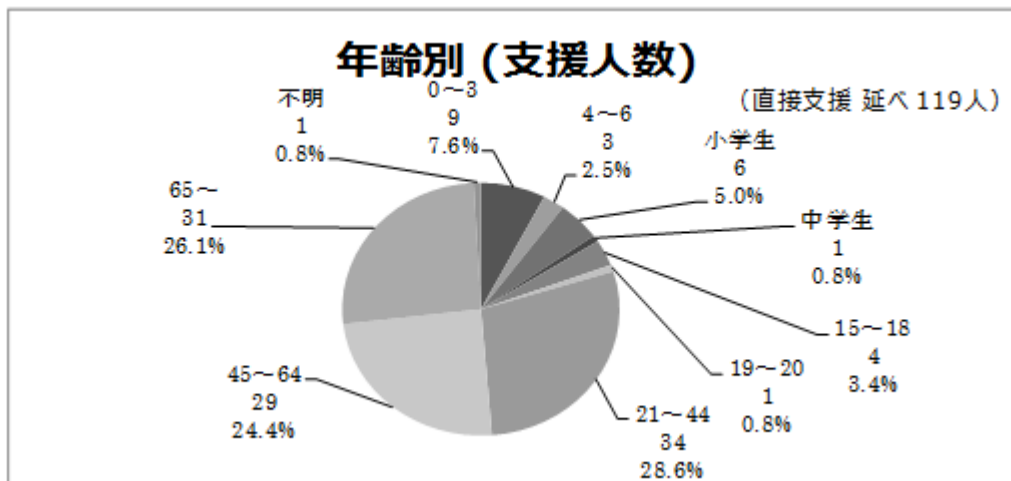
個人への食糧支援の割合が、約 1/4 にのぼりました。



※ 上記の図「2.1 支援方法」の、※ 1、※ 2、※ 3、※ 4 への支援件数で計算（3 人家族でも 1 件でカウント）

2.2.9 年齢別（人数）

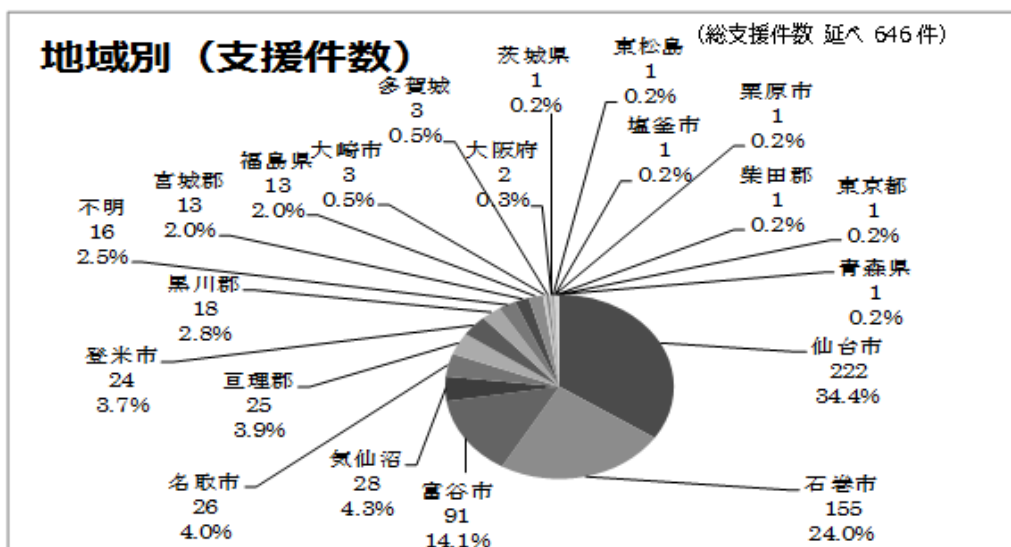
当団体から直接支援したケース記録のみで集計し、対象人数は 119 人と少ないものの、ある程度の傾向が示されました（連携支援、団体支援の年齢データは不明が多いため）。一番多いのが、世間一般では働き盛りと言われている年代の 21～44 歳で、次に多いのが 65 歳以上、45～64 歳という傾向が見られ、高齢者だけでなく、世間一般では働き盛りと言われている年代も、多くの方が貧困に陥っていることが分かりました。また、家族で貧困に陥っているケースも多くあり、親の貧困により子どもも貧困に陥っている、貧困の連鎖が見られます。



※ 上記の図「2.1 支援方法」の、※ 1 の「直接支援」データのみで計算（他のデータは不明が多いため）

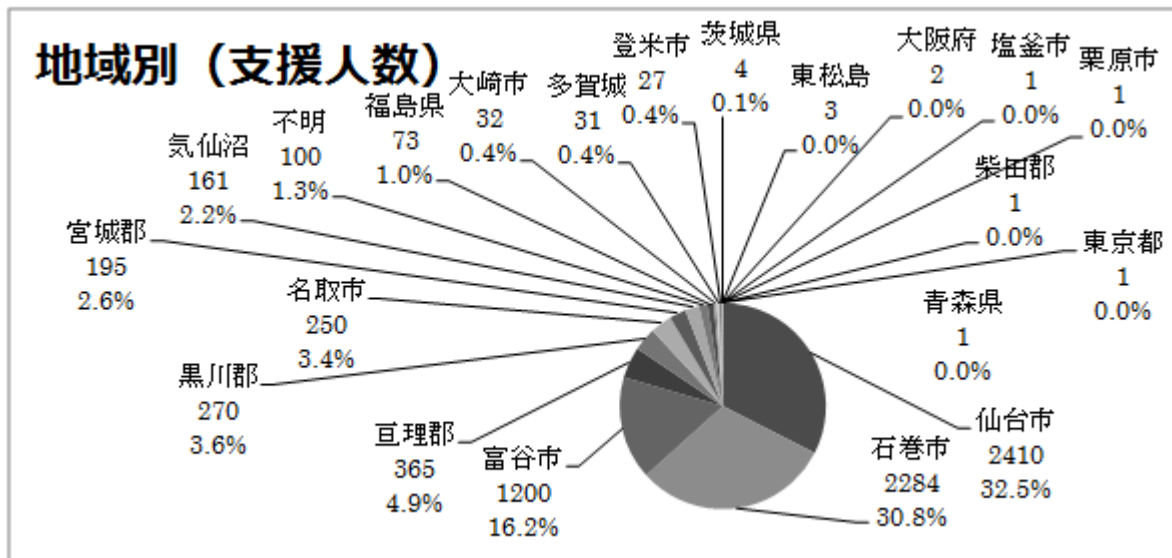
2.2.10 地域別（支援件数）

仙台市内への食糧支援が一番多く、次に被災地である石巻市への支援が多く、3 番目は事務所のある富谷市が多かった。また、県内の被災地としては、石巻市の他にも、名取市、亶理郡、気仙沼の被災困窮者からも同様に多くの支援要請があったことが分かりました。



※ 上記の図「支援方法」の、※ 1、※ 2、※ 3、※ 4 への支援件数で計算（3 人家族でも 1 件でカウント）

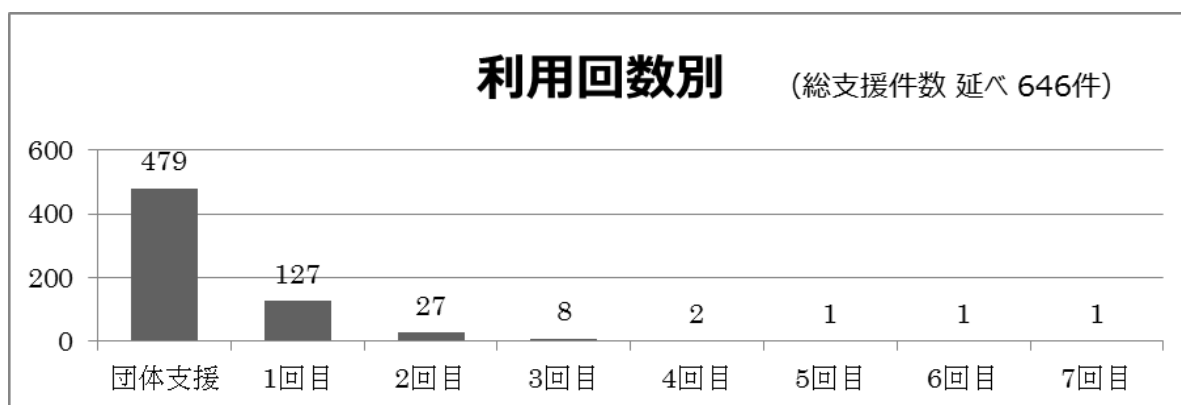
2.2.11 地域別（支援人数）



※ 上記の図「2.1 支援方法」の、※ 1、※ 2、※ 4の合計人数で計算

2.2.12 利用回数別

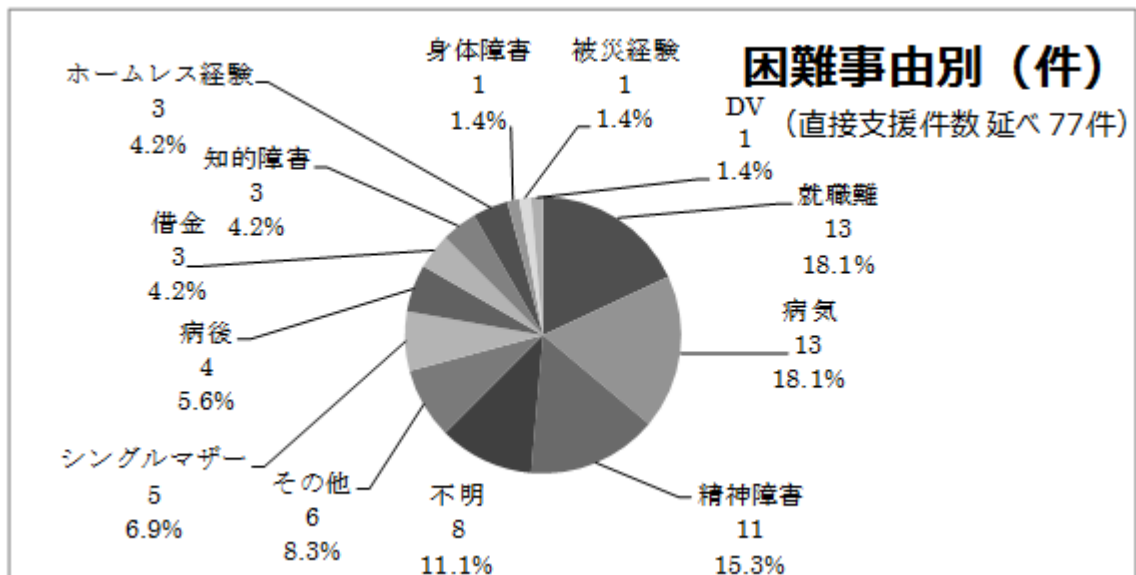
当団体の、これまでのやり方として原則 1 回の利用ということもあり、ほとんどの方の利用回数は 1 回となりました。しかし、状況によっては継続的に 2～5 回支援が必要な方もおり、回数だけではない、支援の仕方や支援の方法の検討は今後必要かと感じました。また支援後、その方が、どのように生活しているかのデータや調査はしていませんが、しっかりと必要な機関につながっているのか、または同じく困窮生活に戻っているのかは、これから当団体としても把握をし、支援のあり方について考えていけると良いと思っています。



※ 上記の図「2.1 支援方法」の、※ 1、※ 2、※ 3、※ 4への支援件数で計算（例：3人家族でも1件で計算）

2.2.13 困難事由別

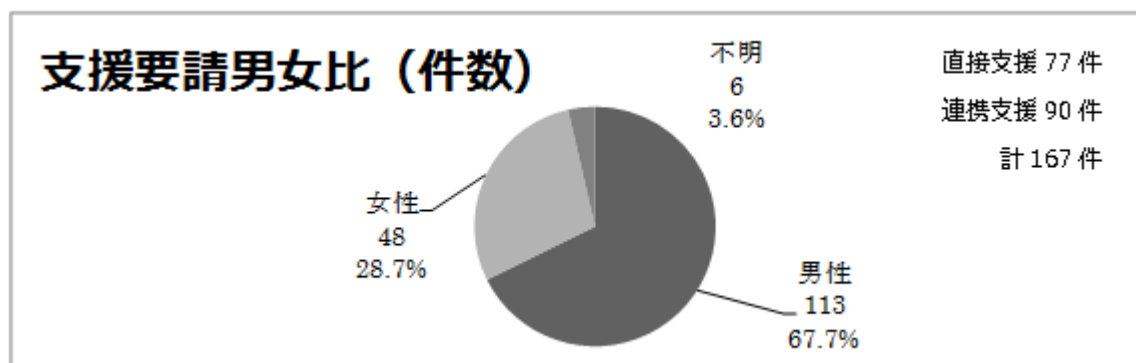
当団体が直接に食糧支援したケースのデータからみると、生活困難事由別で最も多いのが「就職難」(18.1%)と「病気で働くことが困難」(18.1%)で、次に多いのが「精神障がいがあり働くことが困難」(15.3%)、その後「シングルマザー」「病後」「知的障がいがある」などと続きます。このデータからも、高齢、障がい、独居、病気などの背景を抱える方々が、最も多く生活困窮に陥っていることが分かりました。



※ 上記の図「2.1 支援方法」の、※ 1 の「直接支援」データのみで計算（他のデータは不明が多いため）

2.2.14 支援要請男女比

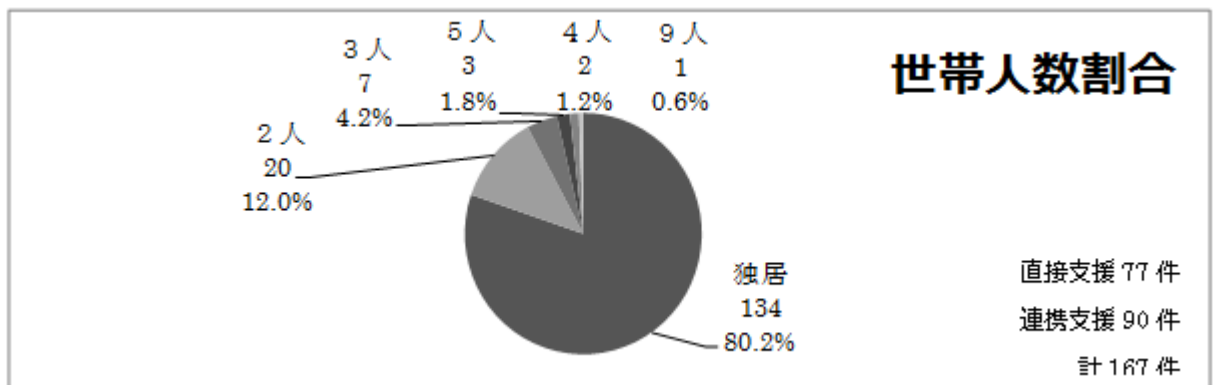
その世帯の、申請者のみの性別データで集計



※ 上記の図「2.1 支援方法」の、※ 1、※ 2 のデータで計算（世帯代表申請者のみの性別にて計算）

2.2.15 世帯人数割合

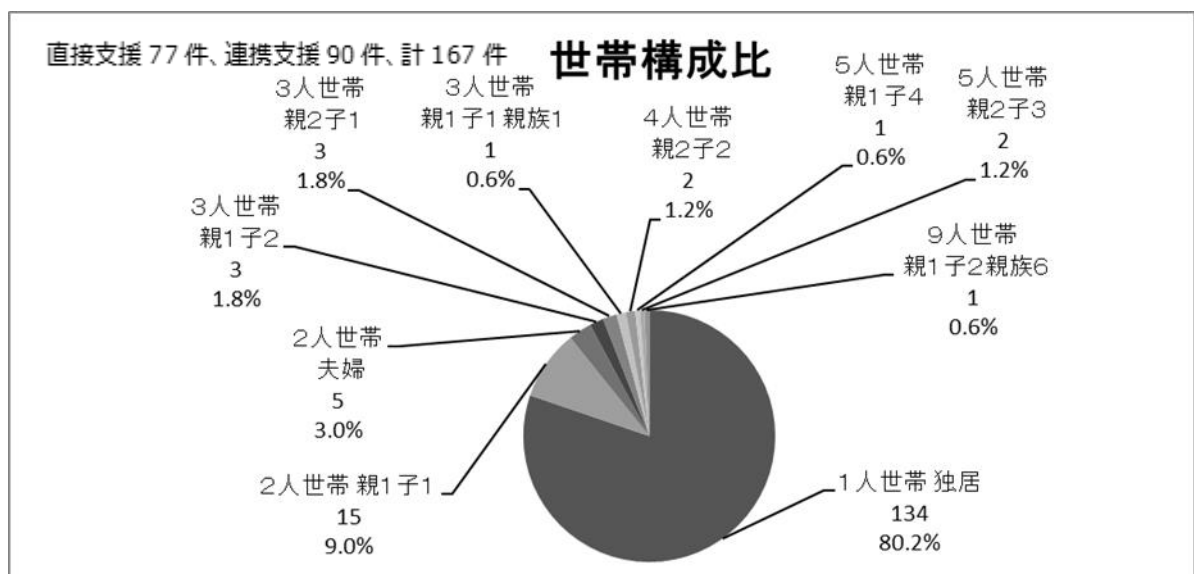
圧倒的に独居暮らしの方が多く、次に 2 人世帯、3 人世帯の数がほとんどを占めました。



※ 上記の図「2.1 支援方法」の、※1、※2 のデータで計算（世帯代表申請者のみの性別にて計算）

2.2.16 世帯構成比

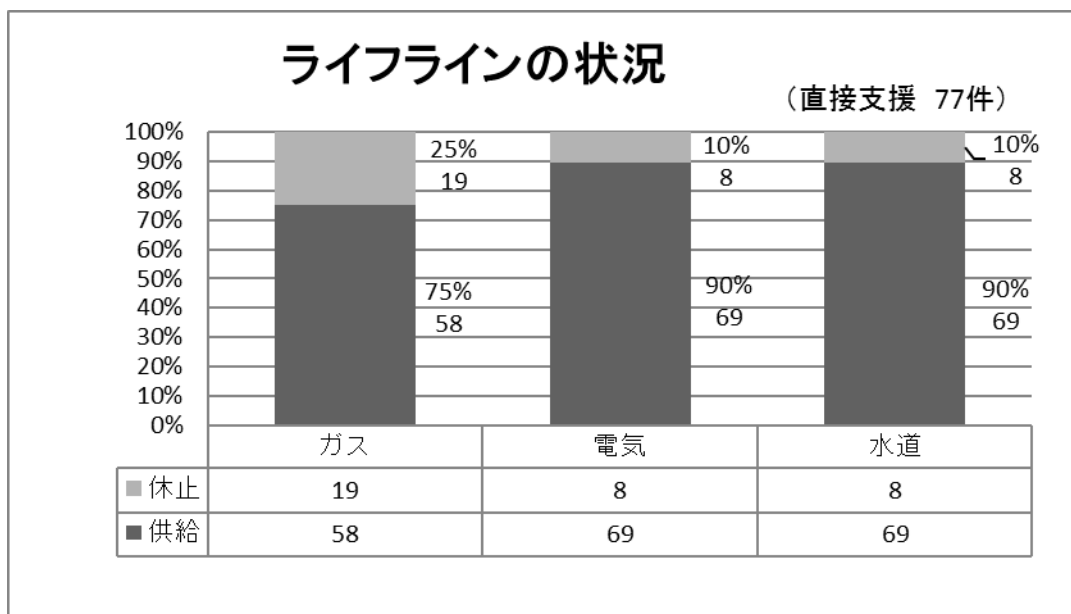
圧倒的に独居が多く 80.2% を占めました。次に、親と子の 2 人世帯が 9.0%、夫婦 2 人世帯が 3% になりました。



※ 上記の図「2.1 支援方法」の、※1、※2 のデータで計算（世帯申請者・要請者の性別にて計算）

2.2.17 ライフラインの状況

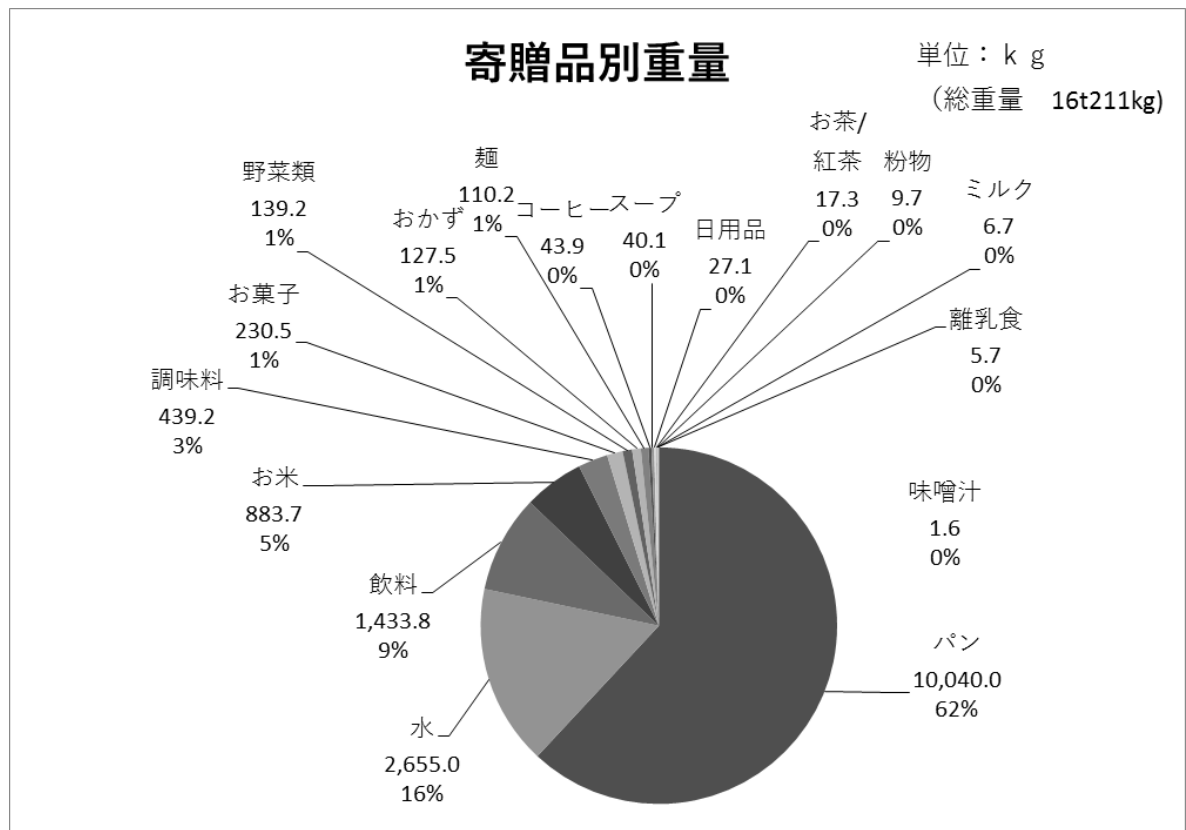
当団体から直接支援したケース記録で集計したのですが、全体の 25%の方がガスを使えない状況下で生活していました。その他、電気と水道にかんしても、10%の方が休止している中、生活を送っていることが分かりました。



※ 上記の図「2.1 支援方法」の、※ 1の「直接支援」データのみで計算（他のデータは不明が多いため）

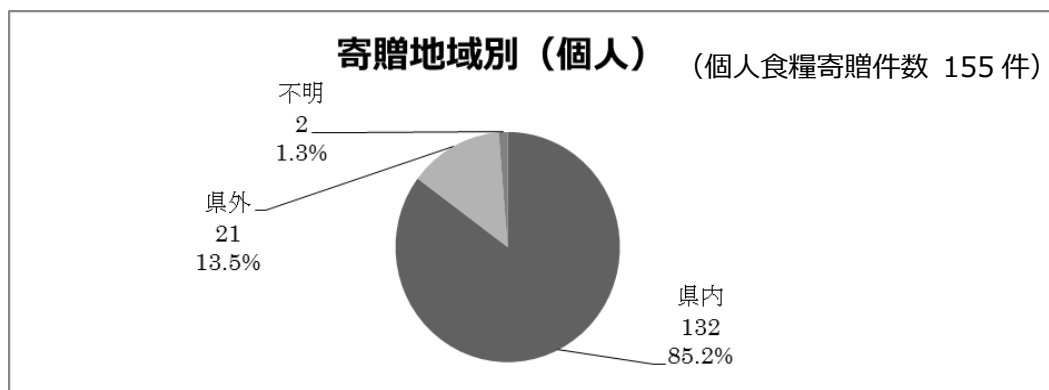
2.2.18 食糧寄贈（品目別）

当団体に寄贈された食糧品は、個人と企業・団体を合わせて、16 t 211kg になりました。一番多いのは、連携している企業からのパン(10 t)で、次に多いのは米どころの東北ならで、お米(883kg)となりました。また、ジュースやお菓子の提供は、比較的多いものの、食糧提供する際に欠かせない、おかず類が全体の 0.8%の 127kg と少なく、時には、おかずの在庫状況がかつかつになることもありました。その為に、これからもおかず類の提供の呼びかけを続けていきたいと思ひます。



2.2.19 食糧寄贈（地域別・個人）

平成 29 年度上期には 155 名の個人の方から食糧寄贈をしていただきました。その内、県内の方は 85.2% (132 名)、県外からも 13.5%(21 名)の方から食糧寄贈いただきました。



2.3 連携団体・団体支援先 一覧（計 81 団体）

1	Swich	41	登米ともまち
2	TEDIC	42	ナックス
3	WATALIS	43	名取植松入生仮設
4	青い鳥児童館	44	パーソナルサポートセンター
5	アスイク	45	箱塚桜団地仮設集会所
6	石巻河北民生委員	46	はびねす
7	石巻三反走仮設	47	ひありんく気仙沼
8	いのちのパン	48	東仙台こども食堂
9	大郷町母子福祉会	49	ひかりの里
10	お茶っこハウスオアシス(地域復興支援センター)	50	ピノッチオ保育園
11	レインボーオブホープ	51	復興住宅あすと長町第一
12	カフェ桜	52	復興住宅あすと長町第二
13	キッズドア	53	船形コロニー
14	共生地域創造財団	54	萌友
15	グループホームしおん	55	ポラリス
16	グループホームひだまり	56	街角カフェ桜
17	車イスバスケット 宮城 MAX	57	松島町母子福祉会
18	県営関船団地	58	まんぼう院
19	コ・エル	59	美田園北集会所
20	雇用促進住宅	60	緑のそよ風

21	コンパス	61	宮城県肢体不自由児協会
22	桜さくら	62	宮城県障害者スポーツ協会
23	さくらハイツ	63	宮城県障害者スポーツ指導者協議会
24	小百合園	64	宮城県障がい者バスケットボール
25	七ヶ浜母子福祉会	65	宮城県障害者バドミントン協会
26	仙台市障害者スポーツ協会	66	宮城県障がい者福祉センター
27	仙台市障害者卓球協会	67	宮城県母子福祉連合会
28	ソフトテニス	68	みやぎ障がい者バドミントン協会
29	大和町母子福祉会	69	宮城卓球バレー協会
30	チーム王冠	70	宮城野区白鳥町老人会
31	創る村	71	みんなの夢広場
32	つばさ荘	72	むつみ荘
33	鶴ヶ谷こども食堂	73	森消化器内科外科
34	デイサービス優	74	夜回りグループ
35	天使園	75	ラサール
36	富ヶ丘あおば	76	ルオミネン
37	富谷市母子福祉会	77	若者サポートセンター
38	富谷市民生委員	78	亘理町母子福祉会
39	富谷柔道	79	わらしべ舎
40	富谷フレンズ	80	わんすてっぷ
41	登米ともまち	81	ワンファミリー仙台

計 81 団体

2.4 企画イベント等実績

2.4.1 フードドライブ

計 4回（集まった食糧の総重量：約 155kg）

日時	イベント名	場所	重量
6月24日（土）	どんどこ市	勾当台公園	42.94 kg
6月25日（日）	どんどこ市	勾当台公園	42.21 kg
9月3日（日）	エコフェスタ 2017	勾当台公園市民広場	68.12 kg
9月30日（土）	アートインクルージョン	J R長町駅前広場	1.8 kg

下期の開催予定

日時	イベント名	場所
10月29日（日）	『0円キッチン』上映会	NPO 法人 ほっぷの森
11月20日（月）	地球温暖化防止講演会(山形市)	山形テルサ アプローチ

2.4.2 生活困窮者への食事提供「AGAIN 食堂」

上期は実施回数 0

下期の開催予定

- (1) 11月10日 17:30~@仙台市 福祉プラザ 9階(和室)

2.4.3 講演活動

日時	主催	内容	担当
6月3日(土)	宮城高次脳機能障害連絡協議会 どんまいネットみやぎ	全国初のフードバンク活動を通し“働く喜び”を軸においた就労支援の取組み	小椋
7月2日(日)	多賀城図書館	活動紹介、キッズドアとの対談	小椋
8月1日(火)	夕ピオ大学	フードバンク活動の紹介と困窮者の現状 食糧提供の呼びかけ	小椋
9月30日(土)	アートインクルージョン 2017	全国初の「フードバンク×就労支援」の取組み、PSC 平井和則氏×小椋 亘 対談	小椋

2.4.4 参加研修

日時	研修名	場所	参加者
5月19日(金)	初級 会計講座	みやぎ NPO プラザ	茶谷・鈴木
6月8日(木)	広がれ！子供食堂の輪」全国ツアー-in みやぎ	黒松市民センター	小椋
8月21日(水)	盛岡 就労支援事業所パノラマ	AGAIN	全員
7月24(月)～25(火)	岩手フードバンク研修	フードバンク岩手	小椋・鈴木
8月31日(木)	NPOのためのマネジメント講座	NPOプラザ	茶谷
9月22日(金)	フードバンク岩手研修会	岩手県民情報交流 C	小椋

2.5 広報・メディア対応

2.5.1 マスコミ掲載

日時	マスコミ	タイトル
4月24日(月)	河北新報 夕刊「NPOの森」	食を通じてつなぐ善意
5月～6月号	雑誌「仙台経済界」	「もったいない」を「ありがとうへ」
6月16日(金)	F M 太白	団体紹介と就労サポートあがいん紹介
6月19日(月)	河北新報 朝刊	フードバンクかつかつ
6月29日(木)	河北新報 朝刊	障がい者の働く力育て
6月30日(木)	河北新報 朝刊	仙台市長選 啓発に期待
7月2日～31日	多賀城図書館 活動パネル展示	テーマ「現代の貧困について考える」
7月7日(金)	T B C ラジオ東北ラジオ	ロジャー大場のラジオな気分(生放送)
7月19(水)・20(木)	F M いずみ	団体紹介と食糧寄贈呼びかけ
8月号	富谷市 手をつなぐ育成会 機関紙	ブルーベリー通信
8月6日(日)	ワケアップ！キャンパスマガジン	食品を生かすボーダーライン
9月3日(日)	J: com テレビ (デイリーnews)	エコフェスタ「モットイナイから始めよう」
9月3日(日)	伊達武将隊	エコフェスタ ステージ登壇
9月14日(木)	ダンスパラダイス 2017 in 登米	協賛団体として団体名掲載
9月15日(金)	河北新報 朝刊「社説」	フードバンクSOS 支え合う地域社会守りたい
9月30日(金)	HP「モットイナイキッチン」バナー掲載	

2.5.2 政策提言

仙台市長選立候補者 全3名へ公開質問状『生活困窮者への施策について』提出

2.5.3 行政との意見交換会

- 8月25日(金) 仙台市各局との「フードバンク・フードドライブに関する意見交換会」
健康福祉局 保護自立支援課, 障害企画課, 障害者支援課, 高齢企画課, 健康政策課, 子供未来局 子供家庭支援課, 危機管理室 防災計画課, 経済局 農政企画課, 地域産業支援課
- 9月5日(火) 仙台市保護自立支援課との「これからの連携の仕方についての意見交換会」

3 就労移行支援事業 就労サポートセンターあがいん

3.1 就労移行支援事業 総括

当法人は、フードバンク活動に加えて、今年度の5月1日より障がいのある方の就職や復職をサポートする就労移行支援事業『就労サポートセンターあがいん』を開所しました。フードバンク活動を通じた就労支援事業に取り組むことで、障がいのある方の社会参加、地域参加、障がいの有無にかかわらず誰もが安心して暮らせる共生社会の実現を目指します。この、フードバンクと就労支援のマッチングのあり方は、全国初の取組みになります。

あがいんの最大の特徴は、座学形式のプログラムに加えて、フードバンク活動を通じたプログラムがあることで、フードバンク活動を通して人や社会との豊かな繋がりを肌で感じられるプログラム内容にあります。

作業内容は、食糧の受取り、食糧の箱詰めやお届け、在庫整理などの一連の活動を、障がいのある方1人1人の障がい特性に合った方法で、皆が仲間として活動しています。普段、自分たちが食糧を提供している「子ども食堂」や「ホームレス支援団体」に手伝いに行くこともプログラムの一環です。

私たちはプログラムを通して、障がいのある方々が「ありがとうね！またよろしくね！」と直接お礼を言われることの多いフードバンク活動での経験を通して、自分自身の存在意義を再確認し自信に繋がればと願うと同時に、誰かの役に立つことの喜びや働く楽しさ、社会参画して人と接することの楽しさ、そして自分を必要としている人がいるという想いから湧く責任感を感じることができ、就職や復職につながるサポートをしていきたいと考えています。また、それだけでなく、就労サポートセンターあがいんでの経験が、その方の今後の人生において、より豊かな人間関係や社会との繋がりが築けるきっかけになれば、それ以上に嬉しいことはないと考えています。

先日、あがいんを見学に来られたお母さんとの話です。知的障がいがある高校2年生のお子さんの事情をお聞きすると、今、子どもと卒業後の進路を考えているところで、子どもといろんな事業所を見学しているとのこと。その内に段々と親の方が楽しくなり興味が深まり、今、さまざまな支援のあり方などを各事業所を見学しながら、進路や自分の子どもにとってどんな環境が合っているのかを考えているとのことでした。上記に書いたように、あがいんのプログラムで大事にしていることや、私たちの想いをご説明したところ、「私たち親は親亡き後に、自分の子どもがどうなるかが心配でならない。正直、子どもの将来が心配で心配で夜も寝れない時もある。生きていくためには確かにお金も必要。だけど、親として我が子に、もっと望んでいるのは、この子が社会の中で、たくさんの人に囲まれて助け合いの中で、楽しく生きていけること。あがいんさんではそれを大事にしている。他の事業所に無いものが在る。見学にこれで本当に良かった。」と涙を流しながらお話をされていました。

当団体では、フードバンク活動を、障がいがある方が社会参加することができる場やツールとしても活用していくことで、生活困窮者支援だけにとどまらず、障がいのある方が社会参加できる機会を創出し、社会で困っている

方の助けになる、“誰も排除されることのない”共生社会の実現を目指します。

そして、就労サポートセンターあがいんを開所するにあたり、昨年度まで常勤 1 名、非常勤 2 名だった事務局でしたが、新たに 4 名を採用し、5 月 1 日からは常勤 4 名、非常勤 3 名の計 7 名の事務局体制で活動をおこなっています。上期では特に、全員がフードバンク事業と就労移行支援事業を兼務して活動できるように、福祉とフードバンクの学びを深めることをしてきました。

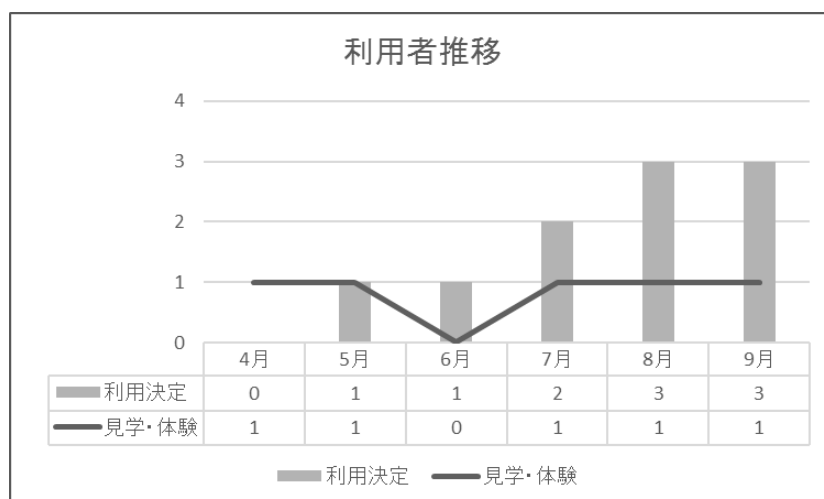
また、全国初のフードバンクと就労支援というマッチングなので、どのようにフードバンク活動を通したプログラムを築き上げ、充実させていくか、また、どのようなプログラムにしたら誰かのために働くことの楽しさを体験できるプログラムになるか、そして常時依頼が入る食糧支援の依頼を計画的にプログラムに盛り込んでいくか、それぞれの作業のユニバーサル工程表の作成など、そして座学形式のプログラムの内容もどのように充実させるか等、0 から皆で考えて創り上げてきました。9 月中旬頃に、プログラム体制が整い。今では、見学のフードバンクなどの見学も多くなっています。

そして、あがいんを必要としているスタッフ（利用者さん）探しにも力を入れてきました。みんなで計 150 箇所以上の機関へ外回りを行い、さまざまなイベントに参加したり、講演活動をおこない、A4 サイズの団体パンフレットを 7,000 枚、二つ折りパンフレットを 5,000 枚、配布して回りました。また、フードバンク活動の際もあがいんの活動を広報することで、少しずつ認知度が上がり、見学者は増えてきています。しかし、下期でのスタッフの利用登録人数は 5 人という状況で、運営は極めて厳しい状況が続いています。

そういった事情から、これからも継続的に運営していける体制を整備することを最優先と考え、9 月中旬から、断腸の思いではありましたが、これまでおこなってきたフードバンク活動の一部を縮小するという決断をおこないました。具体的には、スポーツ少年団、福祉施設などの困窮性の低い方々への食糧提供を一旦停止させていただき、緊急性の高い個人の生活困窮者に支援を絞らせていただきました。また、食糧のお届けも、これまでほぼ毎日お届けしておりましたが、10 月からは月曜と木曜の週 2 日に絞らせていただき、どうしても緊急で必要な際は、パートナー（職員）がその都度お届けする、という体制に変えました。そのことでパートナーに時間ができ、より一層、あがいんのプログラムの充実や、広報活動に力を入れられる体制を整備してきました。

まだ定員には余裕があるので、体験や見学、利用は大歓迎です。これからも、引き続き外回りに力を入れ、あがいんを必要としているスタッフ（利用者さん）に情報を届けていきたいと思えます。

3.2 利用登録者・見学者 推移



3.3 就労サポートセンターあがいの様子



在庫管理

寄贈いただいた食糧の検品、在庫表への記入、データ入力作業などをおこなっています



自分たちが食糧提供してる団体を見学

食糧提供している団体へ見学やお手伝いに行き、実際にどの様に活用されているかを知る事で、誰かの役に立っていることを肌で実感。



フードドライブ

ご家庭にねむっている食糧を集める活動『フードドライブ』を、様々なイベントで実施。来場者に活動を紹介したり、食品の受付をしたり、チラシを配ったり。色々な人と交流する機会になっています。



食糧の受取り

企業さんや個人の方からの食糧寄贈の受取りに上がったり、受付をおこなっています。



パソコン教室

専門の PC 講師をお招きし、ワード、エクセル、ipad などの使い方の基本を学びます（社会参加、対人関係、伝票記入など）



座学形式のプログラム

就労について、脳トレーニング、履歴書の書き方、栄養講座、メモの仕方、自分の障害について、などなどの座学も行います。



バーベキュー

年 4 回の季節行事。みんなでメニュー決め、調理、火おこしをして、ジュージュー！ワイワイ！モリモリ食べました！



お誕生日会

スタッフ（利用者）さんのお誕生日月に、みんなでイベント内容を考えてお祝いします！この日はホットケーキを作りました



芋煮会

仙台風と山形風の 2 種類を作りました！ボランティアさんや理事も参加して、あまり料理をしないメンバーと一緒にトライ！とても美味しくできました！



レクリエーション

スポーツやゲームをしたり。この日は、地域の避難場所になっている公民館の場所の確認がてら、散歩をしました

3.4 参加研修

日時	研修名	場所	参加者
5月27日（土）	高次脳機能ピアサポーター&リンクサポーター 1回	リハビリテーション病院	全員
6月10日（土）	高次脳機能ピアサポーター&リンクサポーター 2回	リハビリテーション病院	全員
6月14日（水）	富谷&黒川郡 相談支援事業所会議	ひだまりの丘	小椋
6月16日（金）	算定基礎研修会	まほろばホール	鈴木
6月22日（木）	就労移行支援事業所等 連絡会議	福祉プラザ	小椋
7月1日（土）	高次脳機能ピアサポーター&リンクサポーター 3回	リハビリテーション病院	全員
7月8日（土）	みちのくフォーラム 2017	パレス松洲	茶谷・金
7月9日（日）	みちのくフォーラム 2018	パレス松洲	小椋・茶谷
7月22日（土）	高次脳機能ピアサポーター&リンクサポーター 4回	リハビリテーション病院	全員

7月25日(火)	よめごと会議	黒松市民センター	茶谷
7月29日(土)	高次脳機能ピアサポーター & リンクサポーター 5回	リハビリテーション病院	全員
8月21日(水)	盛岡 就労支援事業所パノラマ	AGAIN	全員
8月25日(金)	実務者ネットワーク	宮城野区中央市民C	金
9月14日(木)	介護保障を考える弁護士と障がい者の会	福祉プラザ	児玉
9月16日(土)	宮城高次脳機能障害 リハビリテーション講習会	仙台市医師会館	金
9月20~22日	就業支援基礎研修	障がい者職業センター	児玉・金
9月28日(木)	黒松自立支援協議会 よめごと会議	黒松市民センター	小椋

3.5 マスコミ掲載

日時	マスコミ	タイトル
6月16日(金)	F M太白	団体紹介と就労サポート C あがいん紹介
6月29日(木)	河北新報 朝刊	障がい者の働く力育て
7月2日~31日	多賀城図書館 活動パネル展示	テーマ「現代の貧困について考える」
7月7日(金)	T B Cラジオ東北ラジオ	ロジャー大場のラジオな気分(※生放送)
7月19(水)・20(木)	F Mいずみ	団体紹介と食糧寄贈呼びかけ
8月号	富谷市 手をつなぐ育成会機関紙	ブルーベリー通信
9月15日(金)	河北新報 朝刊「社説」	フードバンクS O S 支え合う地域社会守りたい

4 組織体制等

4.1 会員・ボランティア

4.1.1 会員数

個人正会員：18名

法人・団体会員：11団体

4.1.2 ボランティア数

登録者数：35名

実働者数：8名

4.1.3 情報発信

1. ホームページ (NPO 法人 ふうどばんく東北 AGAIN で検索)
2. フェイスブック (NPO 法人 ふうどばんく東北 AGAIN で検索)

4.2 役員

役職名	氏名
代表理事	地主 雅信
副代表理事	立岡 学
理事	小澤 義春
理事	齋藤 きえ子
理事	白木 福次郎
理事	武田 耕嗣
理事	新沼 鉄也
理事	野崎 明
理事	矢野 由美子
監事	吉野 潤一

4.3 事務局

役職	氏名
管理者、サービス管理責任者	小椋 亘
生活指導員	鈴木 美保子
職業指導員	茶谷 小百合
就労支援員	金 てるみ
生活指導員	児玉 みゆき
職業指導員	遠藤 信彦
就労支援員	齋藤 きえ子

5 実施した会議等

5.1 臨時総会

開催無し

5.2 理事会

計3回

第1回：平成29年 4月4日（火）18時30分～19時30分 会場 データコム株式会社

第2回：平成29年 5月13日（土）10時00分～11時30分 会場 ふうどばんく東北AGAIN

第3回：平成29年 6月27日（火）18時30分～20時30分 会場 データコム株式会社

6 助成金・寄付金

6.1 助成金

助成金	金額
We21 ジャパン・みどり	250,000
宮城県 フードバンク活動支援事業補助金	500,000
合計	750,000

6.2 寄付金

企業・団体名	金額
(株)サイコー	10,000
野ばらの会	127,537
一般社団法人 WATALIS	9728
個人の皆さま	71,598
募金箱	11,680
合計	230,543

以上

フードバンク活動にご協力ください

年会費／賛助会員 1 口 1,000 円～、個人会員 1 口 5,000 円～、法人・団体会員 1 口 10,000 円～
 振込み先／ゆうちょ銀行. 八一八支店. 普通 2267021
 名 義／特定非営利活動法人 ふうどばんく東北 AGAIN

NPO 法人ふうどばんく東北 AGAIN（あがいん）事務局

〒981-3341 宮城県富谷市成田 8 丁目 1 - 1

（電話）022-779-7150（FAX）022-774-1410

ホームページ <https://www.foodbank.or.jp/>

フェイスブック <https://www.facebook.com/foodbank.tohoku.again/>